

「G-CLASS 2026」出場選手に訊く ⑥KAZMA SAKAMOTO

# 僕が変化球だけだと思っている人も多いと思うんですけど…



5月13日より開幕するGLEATのシングルトーナメント「G-CLASS 2026」エントリー選手インタビューの第6弾は、KAZMA SAKAMOTOが登場。BLACK GENERATION INTERNATIONALでは石田凱士をはじめとする他の選手たちを前面に出し、自分は一步引いて全体を俯瞰することでユニットとして機能させているバイプレイヤーが、シングルのトーナメントへ出場することについてどう思っているのか。(聞き手・鈴木健.txt)



## 石田からの呼びかけに対しての回答は… 「基本、プロレスは振りだと思っている」

——前回、石田凱士選手とお答えいただいた公式インタビューでは「自分はタッグの方が好きでシングルマッチは嫌い」と発言していましたが、エントリー選手が厳選された中でご自身がシングルのトーナメントへ選ばれたことに関し、思うところをまずはお聞かせください。

**KAZMA** なんて入っているのかなと思いました。でも、入ったということは期待されていると受け取って頑張ろうかなとは思いますが…嫌いですけど。

——本当に嫌いなんですね。

**KAZMA** ただ、嫌いでもいつかは通らなきゃいけないので、頑張ります。ギアチェンジ？ 大丈夫です、プロレスラーですから。

——普段見せていない部分を披露できるという点では、いい機会なのでは？

**KAZMA** ああ、そうですね。ひきだしはたくさんあるので、それを開ける時にはありますよね。まあ普段は開けていないですからね。違うものを見せられたら、スペシャルでしょ？って言えますし。

——他のエントリー選手に話を聞くと「シングルプレイヤーのKAZMAとやっ



てみたい]という人が多かったんです。やはりプレイヤー目線だとそうなるんだと思いました。

**KAZMA** いやー、そういう期待をされるのが一番困るんだよなあ。嬉しいもんじゃないですよ。だって僕がシングルマッチ嫌いだってことはずっと言っているんですよ？ だから、それに見合ったものがやれるのかっていったら自分でもそこはわからないので。それであまりやってこなかった部分もあるし。これね、改めて言いますがプロレスはやっぱりシングルじゃないですよ、絶対！タッグマッチこそがプロレスというのが僕の感覚です。たとえシングルマッチで試合ができようが、何かに優勝しようがそこは譲れないです。なんか、シングルの王座の方がタッグよりも上に見られるじゃないですか。

——団体最高峰のシングル王座のタイトル戦が組まれる時は、それを差し置いてタッグタイトル戦がメインになることはほぼないですよ。三冠ヘビー級戦のあとに世界タッグのタイトル戦がおこなわれるような。

**KAZMA** 僕はタッグがメインのビッグマッチでも全然いいと思っています。むしろタッグの方がその日、プロレスの興行において最後に見る試合として、一番楽しめる可能性の方が高いと思うんです。だから、そこで区別されるのは好きじゃないって、ずっと思っていますよ。

——ただ、今回に関しては出るからには優勝を狙うわけですよ。

**KAZMA** はい、優勝しますよ。ここに選ばれたということは、出ましただけじゃいけないんで。優勝を狙わなかったら、出られなかった人たちにも失礼だし。

——そう、今回に関しては出たくても出られなかった選手が多いんです。

**KAZMA** 僕は出たいと言っていなかったですけど、今回に関しては事前に出たいと言っていた人間は誰もいないんじゃないですか。

——ええ、だから発表になって「なんで俺が入っていないんだ！」という選手はいたと思われま。

**KAZMA** 会社の誰が選んだのかは知らないですけど、今回のメンバーは誰

が優勝してもおかしくないし、ここに牡馬がいても伊藤くんがいてもおかしくない。それこそ田中さんや鼓太郎さんもそうです。誰もおかしくないんですよ。でも、その中で選ばれた意味をしっかりと考えながらやらなきゃいけないと思います。

——1回戦の相手・石田凱士選手とは2023年3月21日、大阪でG-REX王座に挑戦して以来のシングルマッチになります。

**KAZMA** 前はとていいものができたという感触が今も残っているの、それ以上のものができるかどうかに関しては未知数ですね。いきなりバーン!っていうものができてしまうと、それを超えられるか超えられないのかが自分でも読めなくなる。それぐらい、あのタイトルマッチはよかったです。もう会場がデキ上がっている中、今までの二人の過程もありましたし、すごくいい空気でなぜか「カズマ」コールが起こって自分でも不思議だったんですよ。地元の石田より自分の方が大きかった。その空気に二人も乗せられてできた部分もあったと思います。だからそれとは違う空気の中でどうなるかが読めないんですよ。

——嫌だ嫌だと言いつつも、シングルのベルトを欲したわけじゃないですか。

**KAZMA** そこは石田が持っていたからですよ。ほかの人間だったら動かなかったかもしれないです。

——その石田選手から伝言を承ってまして「揺さぶりとかインサイドワークではなく、直球勝負で来てくれ。気持ちのぶつけ合いをしよう」と。つまり、KAZMA選手の持ち味である灰汁の部分ではないところで来てほしいそうなんです。

**KAZMA** へえー、じゃあそういうことにしましょうか、直球勝負だ!って(ニヤリ)。あのね、僕はそうやって乗せられるのが嫌いなんで、向かい合ってみてどうなるかじゃないですか。いくかもしれないし、いかないかもしれない。向こうが来いって言っている時点で“振り”かもしれないんだから、言葉通りにいったところで向こうもその通りにくるかなんてわからない。

——振りですか。



**KAZMA** 基本、プロレスは振りだと僕は思っているんで。

——でも、直球勝負の対応もできるということですね。

**KAZMA** (サラリと)できますよ、はい。僕が変化球だけだと思っている人も多いと思うんですけど、そっちが得意なだけで。変化球が効くからストレートが速く見えたりとかもあるじゃないですか。そういう意味では、オールラウンダーだと自分では思っているんですけどね。

——対戦相手が直球勝負を求めるのは、そういうKAZMA SAKAMOTOを見たいからというのがあってと思いますし、GLEATを見続けているファンもそうでしょう。

**KAZMA** 直球勝負をするのはいいと思いますけど、お客さんが見たいもの、望むことをやるのがプロレスラーなのかな?とも思います。僕は、そこを裏切るのもプロレスだと思うし、直球勝負しないんだと思わせて出したり出さなかったりして探るのが僕たちなんで。お客さんの求めている通りのものを見せたら面白くなくなると思いますよ。それで、望まれた通りに直球を投げてみて「あれ?思っていたものと違うぞ」って言われたら嫌ですし。そこはこっちがコントロールすることであって、見る側がコントロールすることではないと思うんですね。

——そういう話を聞くと、予想ができなくなります。

**KAZMA** 健さんは石田のその要求を聞いてどうすると思ったんですか。

——僕はいつも以上に揺さぶりをかけて向こうの土俵に乗らないようにすると思いました。石田選手の気持ちは理解できるし、確かにそういうKAZMA SAKAMOTOも見たい。ただ、その一方で単純にKAZMA SAKAMOTOの灰汁を今の石田凱士にぶついたら面白いと思うので。

**KAZMA** なるほど。そうですね、いつもと違うものを見せるのも一つのテでしょうけど、自分自身の根本を見せないと良さも出ない気がするんですよ。気持ちはもちろんぶつけますよ。それ以外に関しては、当日のお楽しみにということにしておいてください。

## シングルのトーナメントで 自分自身の何が見えてくるか

——ただ、同じユニットに所属しG-INFINITYのベルトを持っているこのタイミングで対戦することに関しては、意義を見いだしていますよね。

**KAZMA** 4月の新宿FACEで1回戦のカードが発表になったのをバックステージで聞いていたんですよ。その時点で「これは俺と石田なんだろうな」と思っていたら本当にそうだったんで、そっかそっかと。まあ、会社も意味がなければ組まないでしょうから。タッグチャンピオン同士で、今までの過程もあって、前回の大阪の続き…自分と石田にしかない紡ぐものがあるって、それがまた過程となり続いていくというね。だから僕も楽しみであり、レスラーとしては前回負けているからその借りは返さなきゃいけない。一つひとつの武器の強さだったら、たぶん自分の方が破壊力あるんで、いけると思っています。

——そこで石田選手に勝てば、準決勝はリンダマンvs山村の勝者と当たることになるわけですが、これも前回のインタビューで「GLEATの若手はもっと主張して動かなければ」と言っていました。その対象がまさに山村選手になるわけですが。

**KAZMA** 今は、いいレスラー止まりじゃないですかね。別にクセがあるわけでもないし、特に印象はないです。今までGLEATでもいろいろとユニットができてきましたけど、別に可もなく不可もないポジションであってもいい試合はできますから、平均点よりちょっと上のレスラーじゃないですか。だから、波がないんですよ。

——ということは、リンダマン選手が勝つと。

**KAZMA** いや、山村くん。ここはいかないとダメでしょ。その方が面白くな



るんだから。リングマンが絶対王者とは僕、思っていないんで、だから勝つチャンスはあると思います。さっき言ったように、誰が誰に勝ってもおかしくないんだから。山村くんはそれこそ何か違うものを出して…ここでいい試合だったと評価されたところで何も変わらないですから。どちらが勝つにしろ、また反対側ブロックから誰が勝ち進んでこようと、僕はあまり関係ないです。誰であってもそれなりに対応できるから。これが2m以上ある外国人だとか、浜亮太だとかじゃない限りは、自分自身がぶれることはない。基本になる芯はあるから、あとはそこに何をどう乗っけていくか、肉づけをするかなんで。

——あの河上隆一の色にも対応できると。

**KAZMA** あれは僕がどうというよりも、お客さんが喜んでるんだからいいんじゃないんですか。僕が「うーん…」と思うところがあったとしても、喜ばれているならそれでいいし。そこで勘違いしてお客さんの手の平の上で踊らされない限りはね。

——ブラスナックルJUNに関しては？

**KAZMA** ぶれてますね。今までは(河上“シャーマン”隆一の)金魚のファンだったイメージが強かったのが、TheSickというものができて何を見せられるのか、どんな隠し玉を持っているのかじゃないですか。頑張っしてほしいかな。

——頑張っほしいんですね。

**KAZMA** いや、何か違うものを見せてほしい。誰であろうと、プラスアルファって大事だと僕は思っているんで。今の時点では、それが見えていない。結局、ブラスナックル(メリケンサック)ありきでしょ。武器ありき、セコンドの介入ありきじゃ本質は何も変わっていないんで。ましてや今回はシングルの特典ですから、セコンドがいない場合はどうするのか。そこでいたら、それこそ今までと何も変わらない。こうやってね、他人のことは俯瞰で見られるんですよ。でも、自分のことは俯瞰で見られないというか、見えてこない。だからタッグマッチの方がいいんですよ。シングルマッチだと俯瞰で見えないものが、タッグだと全体を見渡せる。まあ、今回はシングルの特典なん

で、そのシチュエーションで自分自身の何が見えてくるのかっていうのも楽しみですよ。

——KAIENTAI DOJOの時は、団体最高峰のシングル王座(CHAMPION OF STRONGEST-K)を保持していた時もありましたが、その時はどう見えていたんですか。

**KAZMA** あの頃は無理して頑張っていた気がします。完全に背伸びしていました。

——あの時点でシングルよりもタッグ向きだと思っていたんですか。

**KAZMA** そうです。真霜拳號と組んでいたじゃないですか。彼はタッグパートナーをコントロールするうまさがあって、お互いで若干引き気味にやっていました。

——お互いがパートナーを際立たせようとしていた？

**KAZMA** そう。隣にいた人間の影響は大きいですよ。真霜の場合はシングルプレイヤーでもあり、両方できるんですよ。その分の主張は強かったのに対し、僕はそんなに主張が強くない。周りのいい木が育つ環境の中で、その影響を受けて自分も育った時期だったと思います。だから、その時に見たもの、感じたもの、身につけたものがDRAGONGATEに上がって生かされたんです。

——オープン・ザ・ツインゲートとオープン・ザ・トライアングルゲートを獲ったのはまさにKAZMA選手の真骨頂です。

**KAZMA** 自分がいたR.E.D.とかは若い選手がいっぱいいたんで、自分が出るよりは彼らに頑張ってもらいたいというのもあったし、自分ももちろん出たけど、そういうふうに俯瞰して一歩も二歩も引いてやっていた時は(そのユニットは)強かったと思います。



## 「わかってくれるだろう」と求めないし見えちゃっているのであればまだまだ

——KAZMA選手のプロレス観を聞くたびに思うのは、よくその方向に自分を持っていけているなど。自分が前に出たいというエゴが優先されないんですね。

**KAZMA** それは僕が影響されているのが東京愚連隊のNOSAWA論外&MAZADAで。あの人たちがいなかったら僕は勘違いして前に出よう出ようとしていたかもしれない。実際、そうやってしまって「そこはそうじゃないんだよ」と試合直後に言われたこともあったんで、その影響は強いです。

——だからこそ、それがわかっている人間がシングルマッチになったらどんな

プロレスを描くのかっていうのが興味深いんです。

**KAZMA** ほら、それがまたプレッシャーなんですよ。できると思っただけでも、やってきた経験が少ないから。不安と楽しみの二つ、我にありですよ。——自分試しの場でもあるんですね。

**KAZMA** 今回、こんなトシになっても自分試しができるのは光栄ですよ。同世代のみんなを見ているとシングルでもちゃんと頑張っているんですよ、鷹木(信悟)さん、石森(太二)さん、飯伏(幸太)くん、宮本裕向、他花師とかね。——昭和57年会の皆さんですね。黄金の世代の皆さんも43歳になるんですね。

**KAZMA** その年の人たちはみんな灰汁が強くてシングルもできて…もちろんタッグもできますけど、シングルプレイヤーとして実績を残してきた人たちが多くはないですか。自分だけがどちらかという一歩引いているタイプなんです。だから、その人たちと比べて目立っていないのは自分でもわかっている。それでいいと思ってやってきたから。たまに欲が前に出ちゃってやりすぎたなって思う時もあるんですけど、今回に関してはいかなきゃいけないところなんで葛藤はあります。

——GLEATが団体としてもキャリアがまだ若かった時点で、ユニットやタッグの経験が豊富でそういうスタンスをとれる選手がいたのが、今思うと大きかったと思うんです。みんなが我先にとなる中で、全体を見据えて自分の立ち位置を考えられる人間が…BULK ORCHESTRAが暴れていた当時、鈴木裕之社長に「KAZMA選手の存在って大きいですよ」と言った記憶があります。

**KAZMA** よく見ている人はわかっているとは思いますが、そこはわかっただけで嬉しうとは思いますが、わからなかったらわからなかったでいいと思っただけ。表に出る人たちがちゃんと目立って、その印象が強いほどみんなの目はそっちにいて僕のような立ち位置の人間は目立たなくなる。それでいいんです。だから「本当はわかってくれるだろう」と求めてはいないし、もしも見えちゃっているのであればまだまだなのかなとも思うし。本来は気づかれないうまくできているのが一番いい。ディック東郷さんや金丸義信さんがそうじゃないですか。でも、そういう方でさえ最近ではわかっただけでいいですよ。それって僕はあまりよくない気がするんですよ。

——万人に理解され、評価された方がいい立ち位置の選手と、気づかれず、評価されぬままやれた方がいい選手と。ただ、何らかの評価を得ることはモチ



バージョンにつながるんじゃないんですか。

**KAZMA** だから、このトーナメントに優勝したら一つの評価を得られるわけですから。それもわかりやすい評価じゃないですか。ベルトにしても、結局はわかりやすい形だから、それが一番いいんだと思うんです。

——トーナメントに優勝すれば、7月1日の5周年記念大会のメインでG-REX王者に挑戦する公算が大です。自分自身が団体のトップに立つことは求めていますか。

**KAZMA** 求めているかどうかは自分でもわかりませんが、これも一度は通らなければならない道だと思っています。というのは、一度も(GLEATの)シングルのチャンピオンになっていないんで、なった人の気持ちというのがわからない。わからなかったら、他人に対し何も言えないじゃないですか。

——「チャンピオンになってもいないのに、何がわかるんだ」と言われたら、経験していない分、返すづらいですね。

**KAZMA** 何かを感じても言えないんですよ、立場的には。だから期待というものをされているのだとしたら、それに応えたい気持ちよりも通らなきゃいけないという方が強いですね、個人としては。避けたいですけど、避けちゃいけない。でも、そういったシチュエーションになったことで、こうしてKAZMA SAKAMOTOの意思を強く打ち出せたわけですから、それはそれでいいんじゃないかって思うんです。

**春の頂上決戦、開幕**

**敬意と報復**

**G-CLASS 2026**

**FIRST ROUND 5.13 新宿FACE**

**SEMI FINAL 5.20 新宿FACE**

**FINAL 6.4 新宿FACE**

**エル・リングマン**

**山村武寛**

**石田凱士**

**KAZMA SAKAMOTO**

**T-Hawk**

**田村ハヤト**

**河上隆一**

**プラスチックJUN**

**G-PROWRESTLING G-CLASS CHAMPION**

■開幕戦 5.13(WED)新宿FACE ■準決勝 5.20(WED)新宿FACE ■決勝戦 6.4(THU)新宿FACE

■SRS席 ¥10,000 ■カウンター席 ¥10,000 ■リングサイド席 ¥6,500 ■指定席A ¥5,500 ■指定席B ¥4,500  
※小学生以上有料 小学生未満は席が必要な場合は有料 ※当日¥500アップ  
※入場時に別途ワンドリンク代¥600が必要になります。※SRS=スペシャルリングサイドは各方向1列目

お問合せ リデットエンターテインメント株式会社  
エンターテインメント事業部 03-5219-7717 <https://ent.lidet.co.jp/gleat/>

**O-テラ e+ イープラス ぴあ GLEAT プロレス 検索**